

令和 7 年産「ゆめかおり」現地検討会を開催

県西地域を中心にパン用小麦「ゆめかおり」を栽培する「茨城パン小麦栽培研究会（以下、研究会）」は、きめ細かな肥培管理により、実需者ニーズに合った高品質な小麦づくりを実践しています。「ゆめかおり」の生産規模の拡大と品質維持に向け、3 月 19 日に研究会と共催で現地検討会を開催し、生産者 21 名のほか、取引先の製粉会社 4 社および関係機関等 29 名の合計 50 名が参加しました。

普及センターより、令和 7 年産の生育概況や近年問題となっている赤かび病の防除方法について説明しました。続いて、農林水産省及び関東農政局との意見交換が行われ、農地集約による大規模化や補助事業の活用をテーマに、その現況や課題などについての質疑応答が行われました。

その後、（有）山善農園（筑西市）の現地ほ場にて、茎立期を迎えたほ場の生育状況を確認しました。乾燥により例年よりも生育が劣る傾向が見られるなか、適期管理に努めたことで旺盛な生育となり、研究会員から多収が期待できるという声が挙がりました。

最後に製粉会社からは、「研究会の小麦の安定した品質にはいつもお世話になっている。今後もこの品質を維持したまま生産して欲しい」と期待の声を頂き、研究会員の生産意欲も高まりました。

普及センターでは、高品質安定生産を目指して、関係機関と連携し、今後も支援に取り組んでいきます。



令和 7 年 3 月 25 日 坂東地域農業改良普及センター 松井匠（成長産業）